

**“福岡市のまちに親切なふるまいを  
ごく日常的なあたりまえなものとして  
埋め込みたい”**

愛は消えても、親切は残る

カート・ヴォネガット

『ジェイルバード』より

## 愛は地球を救う？

---

愛すること、愛されることは素晴らしい体験ではあるが多大なエネルギーを要するため、ふだんの生活の中で発揮するには限りがある。  
親切であれば日常生活の中でムリがなく、持続的に多くの人びとがおこなえるのではないか。

## なぜ人間は親切なふるまいをおこなうのか

---

社会的動物である人間は社会集団の中でしか生きていけない。進化の過程で他者と協力する（他者とのつながりに幸福感を感じる）ように適応してきた。親切さという形質は自然選択によって獲得された人間の仕様といえる。

## 親切なふるまいを生み出す他者への共感

### 親切なふるまいの起点となる2種類の共感

#### 情動的な共感（シンパシー）

他者の感情を自分の  
ことのようにくみ取る力

#### 認知的な共感（エンパシー）

他者の視点を認知的推論  
によって理解する力

**情動的共感は生来的な気質に左右されるが  
認知的共感は後天的に習得が可能。  
つまり親切は誰もが身につけられる技術といえる。**

## 世界人助け指数での総合ランキングで日本は世界最下位

	総合ランキング		人助けランキング		寄付ランキング		ボランティア ランキング	
	Ranking	Score	Ranking	Score	Ranking	Score	Ranking	Score
Israel	92	28%	101	40%	47	33%	86	12%
Cambodia	93	28%	87	44%	64	28%	81	13%
Slovenia	94	28%	109	33%	52	29%	32	22%
China	95	28%	80	49%	85	22%	73	14%
Romania	96	28%	59	57%	88	21%	108	7%
Switzerland	97	28%	111	30%	38	36%	46	19%
Kazakhstan	98	28%	90	43%	54	29%	85	12%
Lithuania	99	28%	88	43%	74	25%	65	16%
Spain	100	27%	97	41%	69	26%	84	13%
Greece	101	26%	71	53%	110	12%	72	14%
Jordan	102	26%	42	61%	105	13%	114	5%
Gabon	103	26%	64	56%	109	12%	98	10%
Hong Kong	104	26%	105	37%	43	34%	111	6%
Latvia	105	25%	98	41%	57	29%	109	7%
France	106	25%	110	31%	83	22%	30	23%
Pakistan	107	25%	92	42%	78	24%	106	8%
Lebanon	108	24%	84	46%	96	17%	105	8%
Morocco	109	23%	45	60%	114	3%	112	6%
Republic of Korea	110	22%	112	29%	59	28%	100	10%
Italy	111	22%	108	33%	80	23%	103	9%
Belgium	112	21%	113	25%	79	23%	69	15%
Portugal	113	20%	104	37%	106	13%	102	10%
Japan	114	12%	114	12%	107	12%	91	12%

「Japan scores the lowest of all the countries with an index of 12,down from 22 in 2018. Japan has historically had an unusually limited civil society for an advanced industrialised nation – the rules around charitable giving are complex,expectations of state provision are high,and organized nonprofits are a relatively new phenomena.」

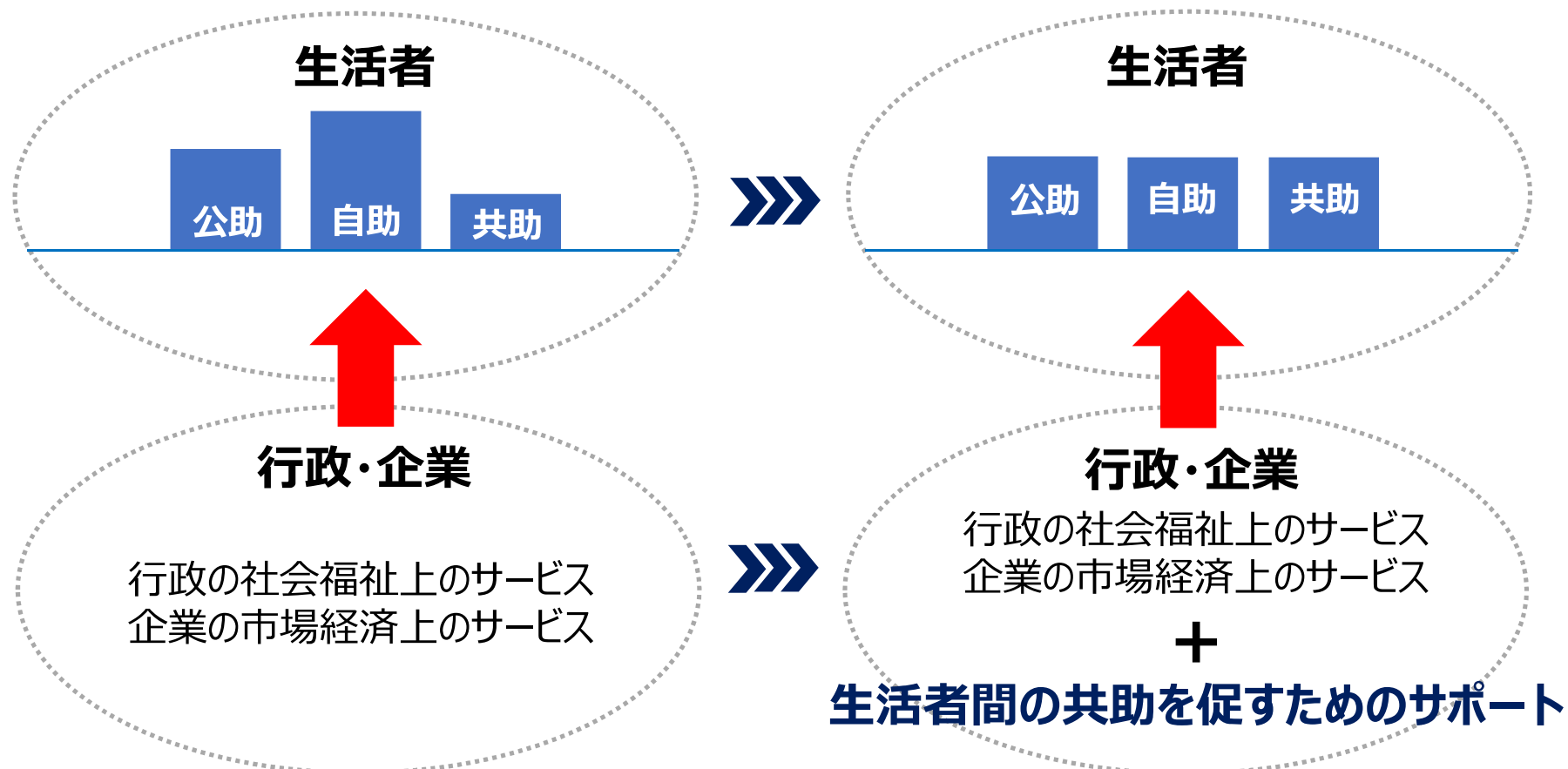
「日本は2018年の調査のスコアを22から12に落とし、すべての国の中で最も低いスコアとなっている。日本は歴史的に先進国としては稀に市民団体が少ない。チャリティーに関する規制は複雑であり、国の対策に対する期待は高く、組織化された非営利団体の登場は比較的新しい現象である」

(レポートに記載された日本の調査結果へのコメントから)

出典 : Charities Aid Foundation (CAF) World Giving Index 2021

## 人に本来的に備わる親切さが引き出されるためには

親切が発動しやすい環境、親切のスキルを習得できる仕組みが社会に不足しているのでは？  
→生活者同士での相互扶助を促す環境、サービスを提供することで共助の比率を高められないか





## スマホがつなぐ、助けあいアプリ

ミッション機能で困りごとや手助けを学び  
対面サポート機能で様々な人とふれあい  
自らの行動をポイントやキャラクターの成長で実感する  
個人が社会に参画しやすくなるアプリ

### 手助けを促進する機能

「手助けを求める人」と「手助けできる人」  
をつなぎ助けあいを促進する機能

### ミッション機能

困りごとやマナーを学SDGsダイバーシティ  
等のイベント参加による個人のスキルアップ

### 可視化機能

貢献行動に応じて履歴、ポイントが貯まり  
達成感を感じられる

○アプリ利用価格：無料

○推奨環境：iOS12以上、Android6.0以上  
(iPad Wifiモデル、iPodTouchなどの端末は対象外)

○対応言語：日本語、英語、韓国語

○利用時間：8時～21時

○利用エリア：日本全国

○公式サイURL：<https://mayii.jp/>



## サポートを頼む

(困りごとリストから選択して発信)



## サポート依頼を受信

(500m圏内にいるユーザーに通知)



## マッチング後

(対面までをチャットでやりとり)



## mayii アプリの特徴を生かして目指すところ



- \* 情動的共感による親切の発現を促し、認知的共感による親切のスキルを学ぶ
- \* サポートを頼む側（助けられる側）、サポートを待機する側（助ける側）は簡単な操作で切替ができ、状況によってどちら側からでの利用も可能となり、多くの人びとにとって利用機会が広がる
- \* 助けられる側は活動の範囲が広がり能力を発揮できる機会が増える。助ける側も手助けによって能力が引き出される機会となる。共に能力発揮の契機となり「する/される」関係を超えて対等な関係性となる

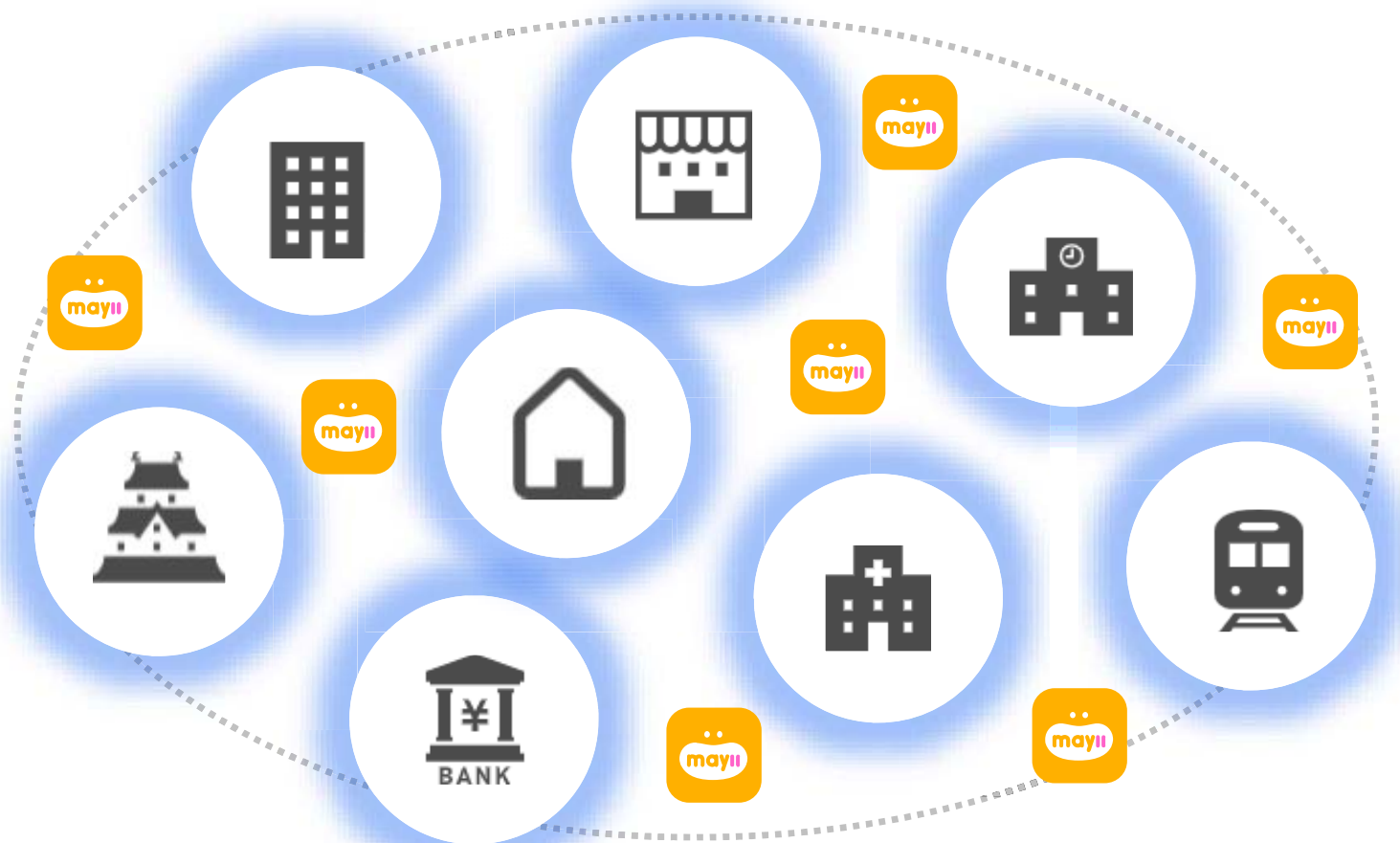
## 生活者-行政-企業が連携して社会課題解決のきっかけとなる場をつくる

まちのインフラ拠点となる場に「May iiアプリ」の案内カウンター、サインPOP等を設置  
その場に関わる人びとへ「May iiアプリ」へ登録いただき、活動への参画をお願いする



## 期待できる効果（1）：サービスが届かない領域のスキマを埋める

企業や行政はDXをはじめとする取組で、自らの周辺領域を利便性の高いサービスで拡充するが生活の隅々までをカバーすることは難しい。そのスキマを「May iiアプリ」を介して人びと同士を繋いで埋める



## 期待できる効果（2）：便利さで失われる人びとのつながりの再接続

行政、企業に対してカーボンニュートラルへの責任が問われるように  
地域コミュニティ再生への責任と期待が求められているのではないか

### カーボンニュートラル

事業活動において排出する温室効果ガスと吸収する温室効果ガスを均衡させるための取り組み  
事業によって収益を得ている企業の社会的責任として問われている

同じように



### 分断-接続のニュートラル

便利さの提供は人びとの生活から煩わしさを軽減すると同時に他者との繋がりを分断する側面も  
均衡のためには新たな繋がりを接続することでバランスが保たれる

**ポイントは均衡させる点  
過剰に繋がり過ぎないこと**

# mayii 活用による地域コミュニティ再生のロジックモデル (店舗を拠点化した小売業協働モデル)



## さいごに～わたしの夢アイデア

---

人が共に生きていくために数十万年にわたる進化によって身につけた親切さが、慈善でも偽善でもなく、あたりまえなものとして日々の生活の場面であらわれる機会が増えるほど暮らしやすい社会だと思います。

そのような社会的価値が高まれば、より多くの人びとが自らの能力を十分に発揮できる機会に恵まれることで経済的価値にもプラスの影響があらわれるのではないのでしょうか。

福岡市がそのようなまちとなり「May iiアプリ」がそのまちづくりに貢献することが、私の夢アイデアとなります。